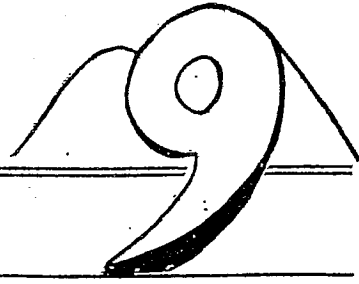


未来をひらく

竜爪山九条の会 会報



事務局 静岡市葵区古庄3-19-34 (五井卓 方)
電話 264-4918

あげましておめでとうございます

「日本国憲法の改正に関する法律」が、昨年四月二日、衆議院で、五月一四日、参議院で自公の賛成多数で可決され、五月一八日公布されました。これにより三年後の二〇一〇五月一八日にこの法律が施行されることになりました。まさに日本の平和憲法が瀬戸際に立たされた感じがありました。

ところが、安倍総理が九月二日、突然辞意を表明。彼が強引に押し進めてきた平和憲法敵視政策が頓挫したかのように見えます。そのため平和憲法を守るろうと立ちあがった運動が、目前の敵を失ったかのような状況が生まれ、実質的に休会状態になつてしまつていくところもあると聞きます。

しかし、「日本国憲法の改正に関する法律」は廃止されなければなりません。この法律の成立を推進した勢力は今不気味なほど沈黙しています。二年後の五月一八日にこの法律が施行されるのを手ごすねを引いて待ち続けているに違いないありません。

この法律が施行され、国会で憲法改正案が発議されれば、改定賛成派はその豊富な財源を使つてマスコミ宣伝などを強化し、国民のマインドコントロールをねらってくるでしょう。そうならないため、私たちは地道に憲法九条の大切さを広め、憲法を守る運動を強めて行かなくてはなりません。

今年も私達竜爪山九条の会では、学習会や宣伝活動を企画してゆく予定です。ぜひ御協力ください。

二〇〇八年一月一日 事務局長 五井卓

竜爪山九条の会 秋のイベント

映画「日本国憲法」をみる

台風一過、まさに「日本の青空」が広がる10月28日(日)、午後1時30分から映画「日本国憲法」をみる会が開かれました。会場は安南禅寺さんの研修施設「大圓堂」(川合3丁目)、木の温もりに包まれた中でおこなわれ、33名が参加しました。会では映画をみた後、お互いに感想など出し合い、午後4時30分頃終了しました。

参加者からは、「国を守るとは国民を守ること、国民の生活を守ること、国民の豊かさを守ることであって、お国のために戦争することではない。戦争は国民を守ることにならない。これから、国を守るとはどういうことなのか、もっともっと議論していかなければならないのではないか。」「憲法とはもともと国民が政府に押し付けたもの。政府の暴走を抑えるもの。日本国憲法は日本国民と占領軍によって、日本政府に押し付けたもの。このことがとても印象に残った。」などの声が聞かれました。

監督：ジャン・ユンカーマン(1952年生、アメリカ、現在日米両国で活動)

映画「日本国憲法」出演者からのメッセージ

ジョン・ダワー(1938年生、アメリカ)

すべての戦争は自衛の名の下におこなわれています。

C・ダグラス・ラミス(1936年生、アメリカ、沖縄在住)

押しつけ憲法だから問題なのではありません。すべてのいい憲法は、たいてい民衆が政府に押しつけたものです。

日高六郎(1917年生、日本、パリ在住)

憲法“改正”問題を国内問題にしちゃだめですよ。国際問題ですから。

ベアテ・シロタ・ゴードン(1923年生、アメリカ)

平和がいちばん、今世界でいちばん大きい重要な問題ですから、日本がそういう指導者になれば、素晴らしいことになると思います。

チャルマーズ・ジョンソン(1931年生、アメリカ)

武力行使の放棄を誓った第9条こそが、日本のアジア諸国に対する戦後謝罪だったのです。第9条の放棄は謝罪を放棄することです。

ミシェール・キーロ(1940年生、シリア)

自衛隊のイラク駐留は国際法違反だと思います。

ジョゼーフ・サマーハ(1949年生、レバノン)

憲法については何よりもまず、日本の近隣諸国に問うべきでしょう。

バン・チュンイ(1960年生、中国)

憲法第9条はまるで、神が私たち人類に贈ってくれた宝物のようです。

シン・ヘス(1950年生、韓国)

軍隊と女性の人権蹂躪というのは密接に結びついています。

ハン・ホング（1959年生、韓国）

韓国と日本の若い世代が、平和的な感受性を一緒に育てていくことが大事だと思います。

カン・マンギル（1933年生、韓国）

21世紀の東アジアではなぜ東アジアの人々の力で、自分たちの平和を維持できないのだろうか。

なぜ、海の向こうの米軍がこちらにこなければ平和が維持されないのか。

ノーム・チョムスキー（1928年生、アメリカ）

もし日本がアメリカの体制に加わるなら、これは20世紀への逆戻りどころか野蛮時代への逆戻りでしょう。

私たちは九条を守る輪を広げます

よびかけ人 138名

賛同者 231名

計 369名

（12月20日現在）

映画「日本国憲法」を観て感想

朝、安南禅寺研修会館「大圓堂」に着き、ジャン・ユンカーマンというアメリカ人の手によって作られた映画とは、どんなものだろうと、思いながら観ていました。終わってみると、ちょっと難しかったかな？

しかし、外国の人たちも戦争の悲惨さ、戦争はしてはいけないと、誰もが思っているということは、心に伝わってきました。日本人が中国にしてきたこと、アメリカ人によって、日本も原爆という最も怖い目にあつたこと、いつの世も、今の事件も、いつ加害者になるか、いつ被害者になるか、家族の間でも身体を切りきざむような惨い殺人が起きています。もう少し相手を思いやって！

ところで、欽ちゃんのCMではないけれど、「幸せってなんだっけ」の問いに、「いまこうしていられると言うことが幸せなんだ」という、まさに、それも九条のおかげですね。（岩崎朝子さん）

鈴木安蔵 再び映画化

「日本の青空」に続いて、今度はドキュメンタリー映画「太陽と月——日本国憲法の誕生」が製作されることになり、今月、アメリカロケが開始されました。3月末に完成、試写がおこなわれる予定です。

映画は第1部が「日本国憲法の水脈」。明治期の自由民権運動の中で国民主権や基本的人権を打ち出した五日市憲法草案や、植木枝盛の東洋大日本国憲法を紹介。第2部の「日本国憲法誕生へ」で、植木らの思想を受け継いだ鈴木安蔵が終戦直後に作った憲法草案に焦点をあて、いかにGHQに大きな影響を与えたか検証します。

販売しています

だったんそば茶 650円

（北海道産だったんそば使用）

ある女子高校生の一句

憲法九条 あげたいノーベル 平和賞

九条の会 第2回全国交流会の報告

11月24日 東京で二回目の「九条の会」全国交流会が開かれました。竜爪山九条の会も、今回初めて参加し、同じ想いを持つ全国の皆さんと交流してきました。

最初、事務局長の小森陽一・東大大学院教授が、前回の交流会以後、1627の会が増え、現在6801にひろがったこと、そして、そのことが安倍首相の突然の退陣や「大連合」のはなしなど、政治の動きに確実に反映していることなど報告されました。よびかけ人の奥平康弘、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊介、大江健三郎の皆さんから、それぞれ今の情勢の中から九条の会への思いが語られました。めったに聞くことのない機会でしたが、絶対に戦争は繰り返してはならないという人間愛にあふれる皆さんの話に、おおいに奮い立たされました。

続いて全国から、頑張っている九条の会からの報告がありました。沖縄のはえばる九条の会は、町の全家庭を訪問し募金を募り、町にある、ひめゆり学徒が動員された旧陸軍病院壕の跡に、九条の碑を建てた活動や、宮城県のある九条の会では、呼びかけや訴えを新聞折込で配ったところ、賛同する市民が大勢集まっているなど、スケールの大きい活動に、みんな感心していました。

午後からは分散会に別れ、全国の活動交流がおこなわれました。竜爪山九条の会も報告を準備していたのですが、残念ながら時間切れで発言できませんでした。でも、全国の勇気と創意あふれる活動の報告は、私たちの活動に大きな励ましになります。

憲法九条は世界の宝！ひとりでも多くの隣人に九条を護ることの大切さを伝えましょう。
(竜爪山九条の会事務局次長 三輪矩正)

会の発足1周年を記念して3月にイベント

関研一さんの貴重な蔵書による戦争写真展

3月4日(火)～9日(日) リンク西奈展示スペース

今回展示されるのは、戦争の悲惨さを訴えかける大判の写真集が中心になります。

日中戦争、太平洋戦争、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争
アウシュビッツなどホロコースト、原爆

あわせて、戦争史、戦争文学などに関する蔵書も展示されます。

今回展示される蔵書は200～300冊。これだけの内容の本を一堂に閲覧するのは、大きな図書館へ行っても、なかなか難しいこと。実際、手に取って見ることができる絶好の機会です。ぜひご期待ください。

講演会 3月9日(日) リンク西奈 講師 レシャード先生(予定)

レシャード先生はアフガニスタン出身の医師。島田市で開業。9・11以後のブッシュによるアフガニスタン侵略を受けて、祖国の人々救済のため、カレーズの会を設立しました。(アフガニスタンでは、水源から水を引く地下水路はカレーズとよばれます。)